

平成30年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価報告書 (中間)

※保護者アンケート回収率
中間【91.8%】年度末【 %】
427名中 392名の回答

(★:かほく市重点目標と関連のある取組 ◆:かほく市共通アンケート項目)

ア たいへんそう思う(十分満足) イ そう思う(やや満足) ウ あまり思わない(やや不十分) エ 全く思わない(不十分)

重点目標	具体的な取組	自己評価			取組状況 【○成果 ▲課題 ☆今後の対応、改善策】	学校関係者評価 (学校関係者評価評価者による意見)
		評価の観点	上段:中間(アの数値)[H29前期] 下段:H30-H29	達成度判断基準 (肯定的なア+イ)		
① 授業力の向上 (基礎学力の定着と活学力の向上)	【教職員】 生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を意識した授業に努めている。	100(65)%[100%] ±0%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○全教員が、授業では生徒指導の3機能を意識し、基礎的・基本的な学習事項の定着に努めている。 ○活学力(思考力・判断力・表現力)を高めるため、課題解決型授業を積極的に行っている教員は90%を超えている。 ○学力調査を分析し、それをもとに学力向上プランの具体策を教科で実践している。 ○「授業が分かりやすく、学力の向上につながっている」と考える保護者は昨年度よりも2%増加した。	・学力調査の結果やアンケートの集計結果を見て、学力が身につけていること、授業にしっかり取り組んでいることがわかる。先生方の努力の結果だと思う。
	【教職員】 学力調査の結果を把握し、「学力向上プラン」に基づく指導を行っている。	96(43)%[96%] ±0%				
	【教職員】 基礎的・基本的な内容を身に付ける指導を行っている。	100(83)%[100%] ±0%				
	【教職員】 活学力(思考力・判断力・表現力)を高める指導を行っている。	96(61)%[96%] ±0%				
	【教職員】 課題解決型授業を積極的に行っている。	91(57)%[92%] -1%				
	【保護者】 学校は、分かりやすい授業や学力向上(学習内容の定着)に努めている。	91(24)%[89%] +2%				
② 校内研究の充実 (学習意欲・表現力の育成)	【教職員】 授業で、「書くこと」「話すこと」を重視した指導を行っている。	96(48)%[92%] +4%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○「書くこと」「話すこと」を重視して授業・指導を行う教師が増えた。 ○授業中に質問タイムをとっている教師、自分から質問する生徒が、どちらも昨年度比+4%になった。 ○家庭で計画的に学習する生徒が、近年で最も数値が高かった昨年度前期よりも4%増加した。特に昨年度に比べ、1年生が増えている。 ○国語(漢字テスト)・数学(数学基礎テスト)・英語(英単語テスト)に対する継続的な学習により、徐々に自分自身で計画を立てて、学習できるようになってきている。 ▲教師側は「書くこと」「話すこと」を重視した指導を行っている意識は高いものの、その活動に対して積極的に取り組んでいる生徒(の意識)は高くない。 ▲生徒の「根拠や理由をつけて発言している」「自分の考えや意見を人前で発表できる」意識が低下している。その自信のなさが発表時の声の大きさに比例していると考えられる。 ▲計画的に学習する意識は高まってきているものの、現状はまだできていない生徒が多いと感じる。 ☆良くなっているところを認め、発表場面に声の大きさを意識させて発言させるようにしたい。 ☆結論先行型の話し方を意識させ、根拠や理由をつけて発言することや書くことを指導する。 ☆グループや全体で発表させる活動を継続して行い、発表することに慣れさせる。 ☆授業中に質問はないか細かくたずねるなど、生徒が分からないところを質問できる時間や場を確保する。 ☆「学びの回廊」の利用を呼びかけ、質問する機会を増やす。	・宇ノ気中の生徒は真面目でおとなしい。慣れるまでに時間がかかる。人前で話すのが苦手な生徒がいる。間違いを恐れず、自信をもって発表することが苦手なよう。人前で話す機会、歌う機会を増やす等、発話の場面や発表する場面を増やす指導を心がけてほしい。個性を大切に教育、特徴を伸ばす教育を大事にして指導をお願いしたい。 ・自分の考えや思いを伝える力(表現力)を高めたい必要がある。元気で活力ある生徒を育成してほしい。 ・主体的な学習者をつくるための方策は? 進んで学習する、人前で意見を発表するよう指導・支援してほしい。 ・先生方が普段の授業で学力向上を意識して指導していることが分かる数値結果である。しかしながら、数値が高ければ安心できるというものではなく、今後もひとつ上を目指して、頑張ってもらいたい。
	【生徒】 授業では、書いたり話したりする活動に積極的に取り組むことができる。	85(40)%[87%] -2%				
	【教職員】 根拠や理由をつけて発言させる指導をしている。	87(57)%[92%] -5%				
	【生徒】 根拠や理由をつけて発言している。	75(33)%[78%] -3%				
	【生徒】 自分の考えや意見を人前で発表することができる。	67(33)%[74%] -7%				
	【生徒】 自分の考えを、分かりやすく相手に伝え、考えを深めることができる。	75(26)%[74%] +1%				
	【教職員】 授業中、生徒が分からないところを質問する時間を確保している。	96(43)%[92%] +4%				
	【生徒】 学習内容で分からないところは質問している。	72(32)%[68%] +4%				
	【生徒】 分からない問題(課題)は、自分で調べたり考えたりして、勉強している。	86(43)%[86%] ±0%				
	【教職員】 自分で計画を立てて、学習に取り組むよう指導している。	96(41)%[96%] ±0%				
	【生徒】 自分で計画を立てて勉強している。	88(32)%[84%] +4%				
	【保護者】 我が子は、自分で計画を立てて勉強している。	67(21)%[69%] -2%				
③ 学習規律の確立	【教職員】 学習規律(授業のルール)の定着に向けた指導を行っている。	100(74)%[96%] +4%	A:95%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満	A	○学習規律を徹底している教師側の意識は高い。(100%)授業のルールを守って授業に集中できている生徒がほとんどである。(95%) ○ベル学にしっかり取り組む生徒は、近年で最も高かった昨年度と同じ数値である。 ▲「宿題や家庭学習ノート、講座学習など、家庭学習にしっかり取り組むよう指導している」教員は96%、「家庭学習に毎日取り組んでいる」生徒は97%と100%ではない。教師側の意識の低下が気になる。共通理解、共通指導ができていない可能性がある。 ▲授業中の課題に対し集中して取り組むことができている点は良いが、宿題の提出など、やはり家庭学習に課題がある。メディア等の利用の仕方を含め、時間の使い方の指導が必要だと考える。 ▲「家庭学習に毎日取り組んでいる」という生徒の自己評価に対し、保護者の評価は低く、15%の差がある。 (学習規律・ベル学) ☆教職員は率先垂範を意識し、できるだけ早く教室に行き、ベル学の内容が適切であるか、ベル学をしっかりと行っているか等、授業者がしっかりと生徒の様子を見取り、確認する。 ☆三役会を活かして、ベル学にしっかり取り組むよう生徒側からも呼びかけ、意識を高める。生徒は3分前着席すること、1分前にベル学を開始することを徹底する。 (家庭学習) ☆まだ学習が習慣化していない生徒も相当数いるので、少しでも改善できるように根気よく指導していきたい。 ☆家庭学習ではワークやプリントなどの宿題をしてから、家庭学習ノートや講座シートをするという順序で行うよう、各学年の学習担当、学級担任から指導する。	・学校参観や学校行事で、生徒の様子を見ているが、いつ見ても落ち着いた雰囲気や学校生活を送っている様子がかげえ、学習規律も良好である。学校と家庭とが連携を密にし、家庭学習の習慣化・定着に取り組んでいただきたい。
	【生徒】 授業のルールを守り、集中して取り組んでいる。	95(47)%[95%] ±0%				
	【教職員】 ベル学にしっかり取り組むよう具体的な指導を行っている。	96(74)%[96%] ±0%				
	【生徒】 授業では、ベル学にしっかり取り組むことができている。	95(47)%[95%] ±0%				
	【教職員】 宿題や提出物をきちんと提出するよう指導している。	96(83)%[100%] -4%				
	【生徒】 宿題や提出物をきちんと提出できている。	90(67)%[92%] -2%				
④ 家庭学習の充実	【教職員】 宿題や家庭学習ノート(1,2年生)、講座(3年生)など、家庭学習にしっかり取り組むよう指導している。	96(66)%[100%] -4%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	☆学級担任(家庭学習ノート)、教科担任(宿題)など、課題を確実に点検することを継続して行い、家庭学習を徹底する意識を高めるとともに、生徒に見通しを持って学習させる。 ☆1,2年生は部活動との両立を目指すよう、全教員で共通指導する。 ☆3年生は放課後や休日の時間の使い方(学びの回廊の活用)を学年集会の場でも指導する。 ☆メディアとのつきあい方を含め、望ましい家庭での時間の使い方を指導する。	・自分の将来や進路についての学習指導を地域人材を活用したり、宇ノ気中OB(卒業生)を活用したりし、生徒が将来に目標を持って学校生活を送れるよう、今後、期待している。
	【生徒】 家庭学習に毎日取り組んでいる。	97(80)%[94%] +3%				
	【保護者】 我が子は、家庭学習に毎日取り組んでいる。	82(37)%[82%] ±0%				
	【教職員】 将来のことや進路について考えさせる指導(キャリア教育)を行っている。	86(50)%[96%] -10%				
⑤ キャリア教育 (進路学習)の推進	【生徒】 将来の夢や目標を持っている。	76(52)%[77%] -1%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	○保護者の「将来のことや進路について考えさせる指導」について学校に対する評価は昨年度よりも5%高くなった。 ▲全体的にキャリア教育が弱い。キャリア教育に関する指導を行っているか答えた教員の数値は大きく減少した。(昨年度比-10%) ▲将来の夢や目標を持っている答えた生徒が減少した。(昨年度比-1%) ▲生徒の将来への展望を持たせる指導(活動)が行えていない。 ▲前期は、キャリア教育に関する行事が少なく、取組・実践が不十分になりがちである。 ▲保護者から見て進路指導の状況が良くない。昨年度よりもさらに4%低下した。 ☆7月以降の職場体験や高校調べ、体験入学について事前指導・事後指導の充実を図ること、将来の自分をイメージしやすくなる。生徒が夢や目標を持って、キャリア教育を重視していきたい。 ☆進路についてのお知らせを学年だよりや進路通信で各家庭へ配付し、保護者との連携を図っていく。	
	【生徒】 進路学習を通して、自分の将来や進路について考えることができる。	79(44)%[82%] -3%				
	【保護者】 学校は、将来のことや進路について考えさせる指導に努めている。	82(18)%[77%] +5%				
	【保護者】 我が子は、将来の夢や目標を持っている。	61(19)%[65%] -4%				

平成30年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価報告書 (中間)

※保護者アンケート回収率
 中間【91.8%】年度末【 %】
 427名中 392名の回答

(★:かほく市重点目標と関連のある取組 ◆:かほく市共通アンケート項目)

ア たいへんそう思う(十分満足) イ そう思う(やや満足) ウ あまり思わない(やや不十分) エ 全く思わない(不十分)

重点目標	具体的な取組	自己評価			取組状況 【 ○成果 ▲課題 ☆今後の対応、改善策 】	学校関係者評価 (学校関係者評価評価者による意見)
		評価の観点	上段:中間(アの数値)【H29前期】 下段:H30→H29	達成度判断基準 (暫定的なアライ)		
2 生徒指導の充実	① 生徒理解、教育相談の充実(生徒、保護者との信頼関係の構築)	【教職員】 生徒の思いや悩みを理解し、信頼関係を深めることができている。	100(38)%【96%】 +4%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A ○生徒理解、信頼関係の部分では、教職員、生徒、保護者の意識は向上した。 ○生徒の「自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり～相談したりできる先生がいる」については上昇幅は大きい。(H28前期:68%→H29前期:77%→H30前期:80%) ○生徒の教員に対する思いの向上は、教師側の生徒に対する関わり方が良く、信頼関係を深めることに努力している(教職員100%)結果の表れかと考えられる。 ○保護者の学校に対する信頼度は上昇した。生徒が安心して過ごせる雰囲気、学級・学校だと感じている保護者が多い。(92%。昨年度比は-2%) ▲生徒の意識を見ると、きちんとダメなことはダメといってくる先生は多いと思っている数値(96%)に対し、悩みを打ち明けたり、教師に相談する気持ちが持てていない生徒が全体の20%いる。 ▲「困ったときに頼って相談できる教職員がいる」という保護者の意識が76%とまだまだ低い。 ▲「学級は、生徒が安心して過ごせるよい雰囲気だ」と考える保護者が昨年度よりも低下した。 ☆生徒が頑張れる場を多くすることで、教師からの声かけも増え、教師と生徒との距離も縮まり、信頼関係を高めることができる。 ☆生徒の頑張っている姿をおたよりや学校HP等で多く発信することで保護者の信頼度も向上させることができる。	・学習規律がきちんとできていて、細かい部分まで目が行き届いている。今の宇ノ気中生徒だからこそできることは何かを考え、守りではなく攻めの指導をしてほしい。実態を捉え、適切な指導を心がけてほしい。
		【生徒】 自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり、相談したりできる先生がいる。	80(38)%【77%】 +3%			
		【生徒】 いけないことをした時、真剣にしかってくれる先生がいる。	96(68)%【95%】 +1%			
		【保護者】 本校に、我が子が困ったときに頼って相談できる教職員がいる。	76(24)%【74%】 +2%			
		【保護者】 学校は、生徒を理解するように努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。	81(15)%【80%】 +1%			
		【保護者】 学級(学校)は、生徒が安心して過ごせるよい雰囲気だと思ふ。	92(30)%【94%】 -2%			
	② ★ いじめ対策の充実	【教職員】 いじめの未然防止や早期発見のために、生徒理解や生徒観察に努めている。	100(67)%【100%】 ±0%	A:95%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満	A ○教職員のいじめを見逃さない姿勢、生徒のいじめを許さない意識は高い。 ▲生徒のいじめに対する意識は高いようだが、実際にかかたり、人の嫌がることをしたりしてトラブルがあった。 C ☆いじめに関わる指導を継続して行い、見逃さないことが大事。日々の見取り(アンケートの利用)をしっかりと。場合によって聞き取り・声かけ・支援を継続的に行う。 ① 毎月のいじめ調査を元に面談 ② 自己有用感、自己肯定感を高める取組(声かけ、さわやかカード等) ③ 保護者への情報提供(たより、ホームページ)	・グッドマナーキャンペーンでも非常に挨拶が良い。しかし、高校生になると挨拶が少なくなる。大人になるにつれて挨拶しなくなる。挨拶が継続するような指導、挨拶ができる人の育成をお願いしたい。
		【保護者】 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる。	72(15)%【75%】 -3%			
		【生徒】 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	99(89)%【98%】 +1%			
	③ ★ 不登校、特別支援教育の充実	【教職員】 不登校生徒への対応は、支援計画に基づき組織的に行われている。	83(33)%【96%】 -13%	A:95%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満	C ○保護者と連携し、不登校生徒への対応や支援に努める教職員の意識は高い。 ▲不登校生徒への組織的な対応が大きく低下した。(昨年度比-13%) A ☆組織的対応を充実させたいためには、各学年において学年主任、生徒指導、教育相談、学級担任の連携を図る。 ☆電話連絡や家庭訪問をこまめに行い、不登校生とその保護者との信頼関係を保つ。	・掲示物がたくさん貼られているのは良い。しかし、見せるための掲示、教員の満足のための掲示になってはいけぬ。メッセージ性の高い掲示、本当に必要なものを貼ることも大事だと思う。掲示物を見る指導もしていく。
【教職員】 配慮を必要とする生徒の把握に努め、関係者や保護者と連携し共通理解を図り、対応や支援に取り組んでいる。		96(48)%【96%】 ±0%				
④ 規範意識の向上(問題行動への迅速な対応)	【教職員】 問題行動等が発生した時に、組織的に迅速な対応や対策ができている。	96(71)%【93%】 +3%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A ○問題行動に対する組織的で迅速な対応はしっかりとできていて、(昨年度比+3%) ○保護者の「学校は社会のルールや規範意識の育成に努めている」意識は高い。 ○全体的に挨拶はしっかりとできていて、(生徒、教職員ともに96~99%の数値)地域でのあいさつが昨年度よりも増えた。 A ▲あいさつや会釈ができている生徒とできていない生徒に差が出てきている。 ▲登校時間が遅い生徒がいる。(昨年度比-3%) ▲保護者アンケートから、あいさつ指導、食育指導、メディア指導のできていない家庭があり、一部の保護者については学校の取組への理解が低い。 A ☆あいさつ指導、登校指導を強化する。玄関、授業の終始、部活動、廊下などであいさつ指導を続けることが必要であり、率先して教職員側からあいさつすることが大事である。教員アンケートの意見にもあったが、教員自身の実践「率先垂範」も宇中ブランドであることを確認したい。時間に余裕をもった登校指導も継続する。 ☆家庭でのあいさつが依然低い。家庭内でのあいさつの習慣化をお願いしたい。 (メディアコントロール) ○毎月の全校集会で学習担当や生徒指導より、家庭学習の大切さを話している。その結果として、生徒のメディアコントロールの意識が高くなっていると思われる。 ▲保護者の意識を高める工夫が必要である。 ☆メディアの利用について、全校集会だけでなく学級指導を継続的に行う。 ☆保護者に対しても、家庭での時間の使い方の指導、メディアコントロールの協力をお願いする。	・最近のいじめは、大人の目に見えないところで発生することが多い。特に、時間の使い方も含めて望ましいネット利用について、ネットトラブルについてもアンテナを高くして、気をつけて指導していただきたい。 ・不登校の現状とその原因について、先生方全員の共通理解と共通の取組で今後も指導していただきたい。 ・家庭との連携を密にしなが、メディアコントロールの取組を充実させ、指導を続けてほしい。	
	【保護者】 学校は、社会のルールや規範意識の育成に努めている。	94(33)%【95%】 -1%				
⑤ 基本的な生活習慣の定着	【教職員】 生徒の基本的な生活習慣の定着を図る指導をしている。	100(71)%【100%】 ±0%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A ○問題行動に対する組織的で迅速な対応はしっかりとできていて、(昨年度比+3%) ○保護者の「学校は社会のルールや規範意識の育成に努めている」意識は高い。 ○全体的に挨拶はしっかりとできていて、(生徒、教職員ともに96~99%の数値)地域でのあいさつが昨年度よりも増えた。 A ▲あいさつや会釈ができている生徒とできていない生徒に差が出てきている。 ▲登校時間が遅い生徒がいる。(昨年度比-3%) ▲保護者アンケートから、あいさつ指導、食育指導、メディア指導のできていない家庭があり、一部の保護者については学校の取組への理解が低い。 A ☆あいさつ指導、登校指導を強化する。玄関、授業の終始、部活動、廊下などであいさつ指導を続けることが必要であり、率先して教職員側からあいさつすることが大事である。教員アンケートの意見にもあったが、教員自身の実践「率先垂範」も宇中ブランドであることを確認したい。時間に余裕をもった登校指導も継続する。 ☆家庭でのあいさつが依然低い。家庭内でのあいさつの習慣化をお願いしたい。 (メディアコントロール) ○毎月の全校集会で学習担当や生徒指導より、家庭学習の大切さを話している。その結果として、生徒のメディアコントロールの意識が高くなっていると思われる。 ▲保護者の意識を高める工夫が必要である。 ☆メディアの利用について、全校集会だけでなく学級指導を継続的に行う。 ☆保護者に対しても、家庭での時間の使い方の指導、メディアコントロールの協力をお願いする。 生徒指導部の今後の重点項目・継続的な取組・日常的な実践 ① 玄関指導、昼巡回、部活動指導における声かけ。週1回は教職員による玄関指導を行う。 ② いじめ調査を元にした声かけ。(→学年主任→生徒指導主事) ③ 定期教育相談による声かけと支援。 ④ QU調査による実態把握と支援・取組。 ⑤ 自己肯定感、自己有用感を育む取組。 (その他) ▲自転車マナーが悪い。 ☆今後も機会をとらえ、指導を継続する。命の大切さを訴える指導を行う。 ▲通学カバンの中身が重いという保護者の意見があった。 ☆教科書の授業がある日はどうしてもカバンが重くなる。生徒の様子を観察し、考える。	・最近のいじめは、大人の目に見えないところで発生することが多い。特に、時間の使い方も含めて望ましいネット利用について、ネットトラブルについてもアンテナを高くして、気をつけて指導していただきたい。 ・不登校の現状とその原因について、先生方全員の共通理解と共通の取組で今後も指導していただきたい。 ・家庭との連携を密にしなが、メディアコントロールの取組を充実させ、指導を続けてほしい。	
	【生徒】 しっかりと身なりで学校生活を送っている。(頭髪・服装等)	99(81)%【98%】 +1%				
	【教職員】 生徒は、学校でしっかりとあいさつや会釈をしている。	96(46)%【93%】 +3%				
	【生徒】 学校で、しっかりとあいさつや会釈ができている。	99(82)%【99%】 ±0%				
	【生徒】 家庭や地域で、しっかりとあいさつをしている。	98(76)%【97%】 +1%				
	【保護者】 我が子は、家庭であいさつをしている。	89(48)%【88%】 +1%				
	【生徒】 時間を守って登校するなど、より良い生活習慣や態度で行動している。	94(73)%【97%】 -3%				
	【生徒】 家庭では、メディアコントロール(テレビやインターネット・ゲーム等の使用)を心がけている。	84(43)%【80%】 +4%				
	【保護者】 我が子は、メディアコントロール(テレビ・インターネット・ゲーム等)を心がけている。	56(14)%【60%】 -4%				
【教職員】 生徒にメディアコントロールの必要性を説明し、指導している。	96(61)%【96%】 ±0%					

平成30年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価報告書 (中間)

※保護者アンケート回収率
中間【91.8%】 年度末【 %】
427名中 392名の回答

(★:かほく市重点目標と関連のある取組 ◆:かほく市共通アンケート項目)

ア たいへんそう思う(十分満足) イ そう思う(やや満足) ウ あまり思わない(やや不十分) エ 全く思わない(不十分)

重点目標	自己評価				取組状況 【○成果 ▲課題 ☆今後の対応、改善策】	学校関係者評価 (学校関係者評価評価者による意見)
	具体的な取組	評価の観点	上段:中間(アの数値)【H29前期 下段:H30-H29】	達成度判断基準 (肯定的なア+イ)		
① 道徳教育や人権教育の推進	【教職員】 道徳の授業等で、生徒の道徳性を育む指導に努めている。		91(36)%【92%】 -1%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○道徳の授業実践について教員の評価は昨年度よりも下回ったが、学級担任として人権意識を高める指導、道徳授業の実践に努めている。生徒は95%と高い数値を示した。(生徒は昨年度比+1%) ○困っている友達には積極的に声をかけたり、助けたりする生徒が多い。(全体比93%) 良好な人間関係の構築に努める意識が伺える。 ▲道徳教育の指導については、計画的に実践していき、生徒の道徳性を育む指導が必要である。 ▲来年度の道徳の教科化に伴い、計画的に、系統的に指導していく必要がある。 ☆日々の指導、継続的な実践の積み重ねで人権意識を高める。場に応じた、望ましい行動ができるような生徒の育成に努める。 ☆温かい学級の雰囲気、より良い人間関係の構築に努める。
	【教職員】 様々な教育活動を通して、人権意識を高める指導に努めている。		96(33)%【96%】 ±0%		A	
	【生徒】 道徳の時間や様々な活動を通して、人としての生き方について考えることができています。		95(55)%【94%】 +1%		A	
	【保護者】 学校は、道徳(豊かな心)や感性を育む指導に努めている。		84(17)%【86%】 -2%		B	
	【生徒】 困っている友達がいたら、積極的に声をかけたり助けたりすることができています。		93(54)%【92%】 +1%		A	
② 自尊感情、自己肯定感の育成	【生徒】 先生方は、自分の努力したことをほめたり、認めたりしてくれている。		91(43)%【90%】 +1%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○多くの生徒が、先生は自分の努力を認めてくれると思っている。(全体比91%) ▲「自分にはよいところがあると思う」生徒が全体の77%であり、4人に1人は自分に自信が持てていない。 ☆意図的に褒める、認めること多くしたり、さわやかカード等を活用し、「自分には、よいところがある」と自信・自己肯定感を持たせることに努める。
	【生徒】 自分には、よいところがあると思う。		77(33)%【76%】 +1%		B	
③ 読書活動の推進	【教職員】 生徒は、学校や家庭で進んで読書をしている。		79(8)%【85%】 -6%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	○朝、登校後に図書室で本を借りる生徒の姿を見かける。図書委員会が朝早くから当番活動に取り組んでいる。 ▲「読書をしている」と答えた数値は、生徒・保護者ともに減少した。 ☆図書館司書と連携を図り、図書ボランティアの活用と掲示物等で、学校や家庭での読書を推進していく必要がある。
	【生徒】 学校や家庭で進んで読書をしている。		69(37)%【70%】 -1%		C	
	【保護者】 我が子は、進んで読書をしている。		47(19)%【55%】 -8%		D	
④ 行事、生徒会活動、部活動の活性化	【教職員】 学級や生徒会活動などで、生徒が主体的に活動できるように努めている。		96(50)%【96%】 ±0%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○生徒会活動に積極的に取り組んでいると答えた数値は、教職員・生徒・保護者ともに昨年以上となった。 ☆「学級会・三役会→生徒議会→生徒会執行部」の流れをつくり、全員参加の生徒会活動を充実させていきたい。(学級会を1時間設定し、話し合った内容を生徒議会で共有・協議し、執行部が決定事項等を全校集会で発表する。) ☆運動会・文化祭・生徒総会などの行事を、生徒が見通しを持ち、力を合わせて考え、決定していけるよう、方向付けをする。(運動会の種目と委員会の決定、学校祭の学年出し物のあり方、総合の時間の使い方の方向付け)
	【教職員】 生徒は、生徒会活動(行事、係活動や委員会)に積極的に取り組んでいる。		100(50)%【96%】 +4%		A	
	【生徒】 生徒会活動(行事、係活動や委員会)に積極的に取り組んでいる。		87(47)%【84%】 +3%		B	
	【保護者】 我が子は、学校行事や学年行事に積極的に参加している。		92(38)%【92%】 ±0%		A	
⑤ ボランティア活動の推進	【生徒】 ボランティア活動(募金・ペットボトルキャップ集め等)に積極的に参加している。		62(29)%【50%】 +12%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	C	○多くの生徒は募金活動に協力することができ、ボランティア活動に対する意識も昨年度比+12%を示した。 ☆災害発生時に行われている緊急募金だけでなく、世の中のためになるようなボランティア活動や学校を良くする運動を、JRC委員会を中心に呼びかけていきたい。 ☆「ちょボラ」の表彰を行うなどし、ボランティア活動への関心・意欲を高めていきたい。
	【教職員】 生徒は、ボランティア活動に積極的に参加している。		83(25)%【81%】 +2%		B	
⑥ 学校生活の向上(校歌、気づき・先読みの行動)	【教職員】 生徒は、全校集会などで、大きな声で校歌を歌っている。		88(25)%【59%】 +29%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	○校歌に対する評価が教職員、生徒どちらも大きく前進した。(教職員:昨年度比+29%、生徒:昨年度比+6%) ○ほとんどの生徒は気づきの行動、先読みの行動を意識して行動できている。 ▲一部の積極的な生徒のみが達成感を感じており、全員ではない。 ☆校歌うたい隊の効果が出ている。しかし、歌声の小さい生徒もいるので、「校歌うたい隊」を継続して取り組み、校歌に対する全校生徒の意識を向上させる。 ☆5本柱の中に校歌があることを折に触れて伝える。(掲示、迎える会での伝達、意識した取組)校歌をよく歌っている生徒をさわやかカード等で褒める。
	【生徒】 全校集会などで、大きな声で校歌を歌っている。		81(34)%【75%】 +6%		B	
	【教職員】 生徒は、気づきの行動や先読みの行動ができています。		92(17)%【93%】 -1%		A	
	【生徒】 気づきの行動や先読みの行動ができています。		92(38)%【91%】 +1%		A	
⑦ 清掃活動の充実	【教職員】 生徒は、こだわり清掃や黙働清掃ができています。		79(17)%【89%】 -10%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	○「物を大切に扱っている」という意識は高い。故意による破損はない。 ▲こだわり清掃は十分に徹底できていない。教師と生徒との意識に差がある。生徒の自己評価が甘い。 ▲真面目に清掃活動に取り組んでいる生徒もいるが、一部いい加減な清掃で終わっている生徒もいる。 ☆教職員はチャイム前に掃除場所へ行き、早い取りかかりを促す。 ☆汚れている場所や掃除の仕方を具体的に指導し、こだわり清掃、黙働清掃を徹底する。さわやかカードで褒める。 ☆長年の使用によりロッカーの金具が取れやすくなっている。丁寧に扱うように注意・指導していく。
	【生徒】 こだわり清掃や黙働清掃ができています。		93(52)%【92%】 +1%		A	
	【生徒】 校舎や学校の用具などを大切に使用している。		99(74)%【98%】 +1%		A	
⑧ 部活動の充実	【教職員】 生徒は、部活動(地域のスポーツクラブ等)に意欲的に取り組んでいる。		96(63)%【100%】 -4%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○教職員・生徒・保護者ともに部活動等には意欲的に取り組んでいると感じている。(しかし、昨年度比はいずれも一ポイントを示した) ▲毎週2回の「休養日が意欲的に取り組めていない」と回答した理由のひとつになっているのかもしれない。 ▲部活動の見取り不足、下校指導の甘さ、部室や備品の管理の甘さが見られる。 ☆部活動指導は教育活動であり、「生徒を見守り、人としての成長の手助けの場」である。問題が発生した際には、速やかに生徒指導と連携して解決に当たる。
	【生徒】 部活動(地域のスポーツクラブ等)に意欲的に取り組んでいる。		91(70)%【96%】 -5%		A	
	【保護者】 我が子は、部活動(地域のスポーツクラブ等)に意欲的に取り組んでいる。		94(63)%【96%】 -2%		A	
⑨ 楽しく充実した学校づくり	【生徒】 家の人と学校のことについてよく話をしている。		86(57)%【83%】 +3%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	○学校のことについて家族で会話をすると答えた数値は、生徒・保護者ともに増加した。 ▲「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒・保護者は減少した。日々の授業や行事等の学校生活の充実を図りたい。 ▲「目的・目標をもって学校生活を頑張っている」と答えた生徒は昨年度よりも減少した。(昨年度比-4%) ☆生活目標を意識させる、先読みの行動を促すなど、目的・目標を持って生活できるように普段から指導していきたい。 ☆学校が楽しいと感じさせることが教師に求められる。すべての生徒が楽しく学校に通えるように、更により環境を整えていきたい。
	【保護者】 家庭で、我が子と学校のことについてよく話をしている。		89(42)%【81%】 +8%		B	
	【生徒】 学校へ行くのは楽しい。		87(53)%【88%】 -1%		B	
	【保護者】 我が子は、学校へ行くのが楽しいと言っている。		85(32)%【89%】 -4%		B	
	【生徒】 目標・目的をもって、学校生活を送っている。		89(48)%【93%】 -4%		B	

平成30年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価報告書 (中間)

※保護者アンケート回収率
 中間【91.8%】年度末【 %】
 427名中 392名の回答

(★:かほく市重点目標と関連のある取組 ◆:かほく市共通アンケート項目)

ア たいへんそう思う(十分満足) イ そう思う(やや満足) ウ あまり思わない(やや不十分) エ 全く思わない(不十分)

重点目標	自己評価				取組状況 【○成果 ▲課題 ☆今後の対応、改善策】	学校関係者評価 (学校関係者評価評価者による意見)			
	具体的な取組	評価の観点	上段:中間(アの数値)【H29前期】 下段:H30-H29	達成度判断基準 (肯定的なア+イ)			評価		
4 健康・安全指導の推進	① 危機管理意識の向上	【教職員】 危機管理意識を高く持って、日常の安全指導を行っている。	92(54)%【93%】 -1%	A:95%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満	A	☆日頃から危機管理意識を高く持つよう情報交換や情報の共有を図る。 ○生徒の交通マナーを守って登下校に努めている意識が高い。(反面、地域から自転車の乗り方が悪いと指摘を受けている。) ▲交差点など危険な場所の渡り方を引き続き指導していくことや、登下校時は自転車による並列走行をしないことを徹底していきたい。 ▲自転車(交通)マナーについては、その都度指導し、命に関わることを強く伝えることを継続していく。 ▲道路での立ち話は歩行者など他の人に迷惑がかかることを集会等で話をしていく。 ☆並列走行や交差点・踏切での交通の仕方について、全校集会・学年集会・学級・部活などで継続して指導していく。 ☆交通マナーへの意識を更に高める方策も考えていく。生徒会と連携(白雲隊の活用)して、生徒自身が安全を意識する取組を行う。 ☆安全に対する意識を向上させるために、日常の指導と長期休業前の指導を徹底する。 ☆家庭・地域・学校が連携して不審者対策を推進するとともに、集会等で生徒に対し、「いかにのおすし」について指導を行う。 ○朝食を食べている生徒の数値は相変わらず高いが、継続的に食育指導を実施していく。 ○クラブパレットと連携して合同トレーニングを実施することで、運動の楽しさを味わえる良い機会となっている。 ▲保護者の「生徒は規則正しい生活習慣が身に付いている」では昨年度比+4%だったが、82%と数値は高くない。家庭でゲームをしたり、テレビを見たり等で就寝時間が遅くなっているところがポイントを下げている理由に考えられる。 ☆給食当番の3点セットを身につけることや給食準備から食べ始めるまでの流れについて、年度当初に職員、生徒の共通理解が必要である。 ☆「命をいただいている」視点を大切に、継続して「盛りきる、食べきる指導」をしていく。「食」への関心を高めるために、2学期に栄養教諭による、食育指導を実施する。 ☆各顧問が連携を図りながら指導法、トレーニング方法を学び、部活動指導していくことが必要である。 ☆保健体育科と連携して、体力向上についての手立てを考えることが必要である。体力テストの結果の把握と「体カアップマイプラン」について、今後も継続して取り組む。			
		【教職員】 生徒は、安全に注意しながら学校生活を送っている。	96(21)%【100%】 -4%	A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A				
	安全指導の充実	【生徒】 学校生活では、安全に注意しながら行動している。	99(78)%【98%】 +1%		A				
		【保護者】 学校は、交通安全や不審者対策などの指導に努めている。	92(29)%【96%】 -4%		A				
	② ※交通ルール・マナーの遵守	【教職員】 生徒は、交通マナーを守って登校している。(ヘルメット、ベスト、自転車の乗り方、徒歩のマナー)	88(17)%【89%】 -1%		B				
		【生徒】 交通マナーを守って登校している。(ヘルメット、ベスト、自転車の乗り方、徒歩のマナー)	99(87)%【99%】 ±0%		A				
	③ 生活習慣の向上と健康な体づくり	【保護者】 本校生徒の交通マナー(自転車・徒歩)はよい。	81(23)%【80%】 +1%		B				
		【生徒】 生活習慣(食事や睡眠等)を意識して自分の健康に気をつけている。	89(57)%【88%】 +1%		B				
		【保護者】 我が子は、規則正しい生活習慣(食事や睡眠など)が身につけている。	82(27)%【78%】 +4%		B				
		【教職員】 朝食の大切さなど、食育に関する指導を行っている。	79(42)%【78%】 +1%		B				
		【生徒】 朝食を毎日食べている。	96(84)%【97%】 -1%		A				
		【保護者】 我が子は、朝食を毎日食べている。	95(76)%【96%】 -1%		A				
	5 開かれた信頼される学校	① ★積極的な情報発信と学校公開	【教職員】 学校は、便りやホームページによる情報提供を十分にしている。		96(63)%【93%】 +3%		A:90%以上 B:75%以上 C:60%以上 D:60%未満	A	○「学校は相談や問い合わせに適切に応じてくれる」と感じている保護者が昨年度比+6%となり、全体の90%を超えた。また、ほとんどの保護者(95%)が、「学校を信頼して子どもを預けている」という回答であった。今後とも、信頼される学校づくりに努めていきたい。 ○数値が表すように、学校公開がしっかりと定着している。「いいメールかほく」に登録している保護者が全体の98%、学校からのたよりやお知らせに目を通している保護者は全体の91%いる。 ○全体の90%の保護者が、学校だよりや学年だより等から、子どもたちの様子が分かりやすく伝わっていると感じている。しかし、ホームページを見る保護者の数値は昨年度比+6%と増加したが、相変わらず低いので、工夫や手立てが必要である。 ○授業参観や学校行事に参加する保護者は全体の74%とこれまでと変わらない。毎月の行事予定を見やすく、各種たよりや学校HPにも行事予定を掲載し、開かれた学校づくりに努めている。 ▲「外部評価を学校運営の改善に役立てる必要がある」、「地域の外部人材の活用を積極的に行う必要がある」と考える教職員が増えた。 ☆学校の様子や生徒の頑張りを発信することで信頼度を高めることにつながると考える。情報をわかりやすく伝え、より多くの保護者に見てもらえるようなホームページとなるよう、工夫をしたい。 ☆今後も外部評価をしっかりと受け止め、より良い学校運営ができるように努めていきたい。学校の教育活動をより多くの保護者に伝え、保護者と学校が協力できる体制づくりを確立したい。保護者が参加可能な行事を掲載するようにしたい。 ☆コミュニティ・スクールの機能を推進したい。地域にいる人材を外部講師として招聘する。地域のマンパワーを活用した取組や実践を行ってほしい。 ☆保護者全員参加のPTA活動を推進し、PTAと協力して学校を支えるより良い活動になるようにしたい。 例1:PTAによる学校清掃活動(今年以上にPTAが中心の活動とする。) 例2:年間行事複数回から、必ず1回の参加、手伝いを依頼する。 ☆年度始めに綿密な年間計画を立て、校区3校がスムーズな接続、より効果的な小中連携を推進していく必要がある。
			【保護者】 学校のホームページを定期的に見ている。		34(10)%【28%】 +6%			D	
			【保護者】 学校だよりや学年だより等で、学校の指導方針や子どもたちの様子などが、分かりやすく伝わってくる。		90(26)%【92%】 -2%			A	
			【保護者】 学校からのたよりやお知らせに目を通している。		91(55)%【94%】 -3%			A	
			【保護者】 「いいメールかほく」に登録している。		98(92)%【97%】 +1%			A	
			【教職員】 学校は、授業や行事などを積極的に公開している。		96(63)%【100%】 -4%			A	
【保護者】 授業参観や学校行事等に積極的に参加している。			74(21)%【74%】 ±0%		C				
【保護者】 学校は、相談や問い合わせに適切に応じてくれる。		91(26)%【85%】 +6%	A						
② 学校評価の充実		【教職員】 学校は、外部評価等を学校運営の改善に役立てるよう努力している。	96(48)%【100%】 -4%	A					
③ ★地域人材の活用		【教職員】 学校は、地域の外部人材の活用を積極的に行っている。	92(50)%【100%】 -8%	A					
④ ★保護者・地域との連携	【保護者】 学校のPTA活動は活発である。	93(24)%【88%】 +5%	A						
	【教職員】 学校は、小中連携を積極的に進めている。	92(42)%【89%】 +3%	A						
※ その他	※ 学校経営方針に基づく指導の充実	【保護者】 学校を信頼して子どもを預けている。	95(47)%【95%】 ±0%	A					
		【教職員】 「生徒が主役」という意識を持って、日々の指導にあたっている。	96(54)%【100%】 -4%	A					
		【教職員】 一人一人の生徒を大切に、「褒めて、認めて、伸ばす」指導に心がけている。	96(50)%【100%】 -4%	A					
		【教職員】 「チーム宇中」として同学年・教科・分掌を担当する職員と共通理解・共通実践を進めている。	88(42)%【93%】 -5%	B					
		【教職員】[新] 最終退校時刻や定時退校日を意識して業務を進めるなど、「働き方改革」の推進に努めている。	78(4)%【-】 %(-)	B					

 : 保護者
 : 生徒
 : 教職員